

青森市民図書館協議会委員委嘱状交付式、組織会及び

令和7年度第1回青森市民図書館協議会 会議概要

1 日時 令和7年10月21日(火) 14時00分～15時30分

2 場所 青森市民図書館8階会議室2

3 出席委員 相馬克典 会長、長尾亜希子 委員、松居司 委員、
佐々木敦子 委員、西塚弥生 委員、鈴木愛 委員、
中園裕 委員、手塚理香子 委員、伊東暁生 委員、
草野知子 委員、(10名)

4 欠席委員 なし

5 事務局出席職員 館長 土岐志保、室長 工藤大輔、主幹 成田恵悦、
主幹 對馬智明、主幹 瀬川幸江

6 傍聴者 なし

7 次第

(1) 開会

(2) 報告事項：青森市民図書館の概要について

(3) その他

(4) 閉会

8 主な質疑応答、意見等

- ・ 今年6月の新聞記事に、図書館が充実した地域ほど高齢者の認知症の頻度が低いとの研究論文が掲載されていました。チームオレンジの活動で認知症カフェなどもあり、子どもの頃の本を読みたがるお年寄りもいます。アウトリーチ事業として、高齢者の読書活動に関する取組を取り入れてほしい。
- ・ 11月のブックリサイクルフェアの準備に協力しています。除籍資料を小・中学校や公共施設に譲渡した取組はすごく良い。小学校や幼稚園などほしい人にはどんどん配ってあげても良い。自分たちも協力するので、欲しい人に持っていってもらったほうが、本も喜ぶと思います。
- ・ 図書館ではどのように選書しているのか？
- ・ (事務局回答) 図書館では、収集方針を基に購入する本を選びます。6階は中高生向け、7階は一般向けと児童向け、8階は専門書を置いています。それぞれの場所に置いている本の冊数を基準とし、本の購入金額を計算します。その金額の中で、各資料の収集担当司書が新刊本のカタログを見ながら、「これは一般の方が読みたがるだろう」とか、「この本はぜひ子どもたちに読んでほしい」などを予想し、類似の図書の貸出回数などを考慮して決めています。

- ・ 市民がどの分野の本を読んでいるのか、数字を分析することはできませんか。例えば、高齢者であれば高血圧の本を借りているとかそういうデータがあるのではないかと。そういう興味がある本をディスプレイすることで貸出も増えるのではないかと思います。
- ・ (事務局回答) この本が何回借りられているのかなどの貸出回数は分かりますが、それを借りた方の年代など詳しいデータは出せませんでした。今回システムが新しくなり、できることも増えたので、御意見を参考とさせていただきます。
- ・ 今後の図書館の方針として提案しますが、一つに子どもたちに本の魅力を伝えること。子どもたちがスマホを手にする時期が早くなり、スマホを持つと本を読まなくなります。それまでに、いかに読書に興味を持たせるかを探る必要があります。もう一つ方向性を探るのが、高齢者対策。図書館側から専門家の立場として、「こんな本があるから読んでみないか」と提案するなど。歴史講座の受講者はほぼ高齢者の方だが、文学や郷土文学にも関心が高い。美術にも関心が高いが、美術の講座は意外にない。外部に講師を委託しなければならないかもしれないが、歴史講座のやり方を文学講座などでもできるのではないかと。あとは先程の話にあったデータの活用です。
- ・ ボランティアとして市民センターでおはなし会を開催しているが、会場に子どもが来ないというか、いない状況です。広報にも載せて、小学校低学年までとしていたが、なかなか来ない。でも高齢者は来てくれる。だから、今年度は対象を、興味のある方は「どなたでも」とし、チラシを配るなど宣伝しました。自分もそうだがお年寄りの方は、結構、絵本が好き。視力とか弱っているから、自分で読むのが大変でも、こちらで絵本を読むと、とてもうれしそうにして聞いてくれます。今までは子どもを対象として選書していましたが、大人が喜んでくれそうな絵本などを選書し読み聞かせを行っています。
- ・ 絵本は大人にも人気があり、本屋によっては絵本特集をやっています。絵本は年齢を問わずです。
- ・ 子どもたちは新しい本のほうが好きだが、お年寄りはあまり気にしないので、廃棄する本などはお年寄りが集まるようなところに置くとか、あるいは認知症カフェみたいなところに差し上げるのもあります。
- ・ 小学校に行っている本の団体貸出は、幼稚園や保育園では行っていますか。
(事務局回答) 行っています。
- ・ アウガの駐車料金免除の時間が1時間と短い。駐車場に入れて、図書館に寄って、「さんぽぽ」に寄るとなると2時間以上かかります。そのため、駐車場料金が係るので「気軽に寄れない」という方が多く、何とかならないでしょうか。
- ・ (事務局回答) 関係部署へ伝えます。
- ・ 今の子どもたちが大人になった時、懐かしく感じる本とはどんなものだろうと考えました。以前、流行った本を、「みんな読んだね」とキャンペーンするとか共通認識でもっと面白い取組ができるのではないかと思います。人口も減って高齢化しているから読まなくなっているのか。それでも本を読む人をずっと維持していきたいし、やっぱり本から得る知識は大事だし、想像力が膨らむ。そういうところを育てていきたい。

- 皆さんのお話を聞いていると、図書館ってやっぱり重要だと思う。小・中学生は高校生よりは本を借りているイメージがあるが、高校生はスマホを見ることに時間を割くので本を読む時間がない。本を読むことが習慣化していない。学校の読書週間を増やそうかと思っているが、何回もできない。今の話を聞いていて考えたのは、全校生徒に読んでも読まなくても、全員1回は図書室の本を借りるという取組をやってみようかと思います。まだまだ新しいことをやりながら、進めていきたい。
- 教科書に載っている作品はどれも素晴らしい文章なので、続きがあると伝えたと、興味をもって借りてくれる生徒もいます。ポップづくりをさせると、その時は多くの生徒が本を借りていく。本に触れるきっかけの一つにはなっているのかなと思います。
- 先程の1回は借りるというのは、いいなと思います。全員が読まなくても、10人に一人は面白いと気づいてくれます。
- 大学の保育の実習があると、絵本や紙芝居を図書館に探しに行く。本に触れさせる機会を増やすことが必要だと思います。